

緊急署名にご協力をおねがいします（詳しくは裏面をご覧ください）

川崎市長 福田 紀彦 様

## 川崎市は「イスラエル軍事エキスポ」への とどろきアリーナの利用許可を 取り消してください！

青少年や地域住民が利用するスポーツ施設で、武器見本市を開かないで！

お名前	ご住所（市町村まででかまいません）

締め切り 2018年8月13日 集めた署名は川崎市に提出します。

集約先 川崎でのイスラエル軍事エキスポに反対する会

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民活動サポートセンター9階  
レターケース9番 共同行動のためのかながわアクション気付  
電話 090-6185-4407（杉原） メール anti\_isdef@freeml.com

# 川崎市は「イスラエル軍事エキスポ」への とどろきアリーナの利用許可を 取り消してください

川崎市長 福田 紀彦 様

川崎市とどろきアリーナで8月29・30日、「ISDEF JAPAN」（イスラエル防衛&国土安全保障エキスポ）が開催予定だと伝えられます。

この軍事見本市の主催国イスラエルは、1948年の建国以来、戦争を繰り返してきました。1993年、PLO（パレスチナ解放機構）との「オスロ合意」でようやく、パレスチナ人との長年にわたる紛争を、外交交渉で平和的に解決することを約束しました。しかし、イスラエルは、以降も武力行使を繰り返し、おびただしい殺傷と破壊を積み重ねてきました。最近では、春以降にガザ地区を中心にパレスチナ人が行った、生まれ故郷に帰る権利（帰還権）の実現を求める非武装のデモに対して、軍部隊が銃撃を浴びせ、140人以上を殺し、1万6000人以上に及ぶ老若男女に重軽傷を負わせています。

皮肉なことに、正規戦、ゲリラ戦、デモ鎮圧など実地で試されたイスラエルの兵器やデモ鎮圧装備品は、世界的に高い「評価」を獲得しました。戦争に明け暮れるイスラエルの軍・安全保障用装備は国を代表する輸出品となりました。東京五輪をターゲットに初めて日本で開かれる「ISDEF JAPAN」は、こうした装備品を売り込む絶好の機会とされています。

過去のISDEFの動画には、小銃などの殺傷用武器がひんばんに登場し、「テロリスト」と見なした人物の制圧訓練すら堂々で行われています。今回の見本市は「テロ・サイバー攻撃対策」を前面に出し、「武器の展示はしない」としています。川崎市もまた、「武器の展示をさせない」ことをもって、利用許可を出したことを正当化しています。

しかし、イスラエルが誇る監視などの技術もまた、殺傷や抑圧を目的とする軍事システムの一部に他なりません。たとえ、露骨な「武器」を排除したとしても、パレスチナ人の命と引き替えに開発された血塗られた技術・機材の売り込みの場という本質は変わりません。また、「テロ・サイバー攻撃対策」の美名のもとで、監視社会が強化されることも見逃せません。

こうした好戦的で暴力的なISDEFのイベントが、青少年や地域住民が利用するスポーツ施設で行われることは、極めて異常なことではないでしょうか。

川崎市は、1982年、「核兵器廃絶平和都市」を宣言しています。また、「多文化共生」を掲げ、ヘイトスピーチを事前規制するガイドラインの策定なども進めています。

その川崎市が、核武装国イスラエルによる「長年の実戦で試された」安全保障装備の売り込みを狙う軍事見本市に公共施設を貸し出すことに強い違和感を覚えます。さらに、今回の利用許可は、「生涯スポーツの振興及び市民文化の向上を図る」ことを設置の目的（1条）とする「とどろきアリーナ条例」に明らかに反しています。

このまま川崎市が許可を与えるなら、戦後の日本社会が維持してきた「非戦」の力はむしばまれ、後世に禍根を残すでしょう。

今からでも遅くありません。私たちは、川崎市が、今回の誤った決定をただちに見直し、会場の利用許可を取り消すことを強く求めます。

以上